

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新 知 大 学

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2014.12 Vol.25

平成26年12月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

『密庵墨蹟添状』————— ①

■図書館散歩

自分の書庫を持ち歩く————— ② 電子書籍で再読するSF小説

文化政策学部 文化政策学科 教授
野村 卓志

過去の記憶————— ③

デザイン学部 生産造形学科 教授
大学院 デザイン研究科 教授
佐井 国夫

■シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう!

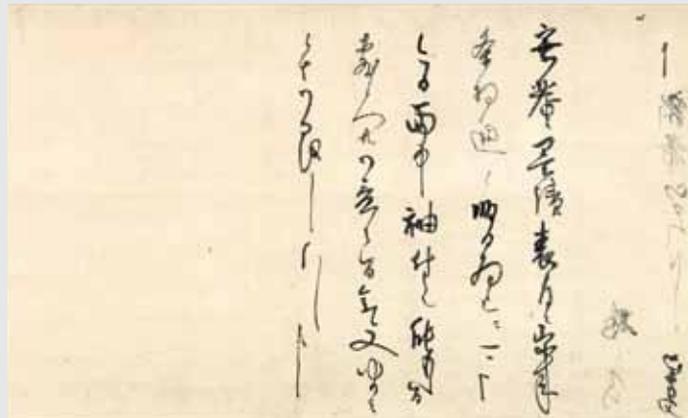
雑誌記事データベース————— ④

■特集

れ・ふあ・れ・ん・す・噺————— ⑥

■巻末

図書館ニュース————— ⑧



『密庵墨蹟添状』 瓢庵宛、大徳寺龍光院蔵

「手紙で読む利休の生涯」同朋舎メディアプラン, 2007. [791.2/Se 71]

『密庵墨蹟添状』は、大徳寺の塔頭龍光院に伝わる密庵墨蹟の添え状です。「密庵の墨蹟の表具ができたので持参しようと思う。明日、会った際に申し上げることもある。今日は、雨天なので中廻しの部分を扱うのはよくないのだが、そちらの注文なのでしました。もし、歪んでいたならば直します。」という内容で、瓢庵から依頼されていた密庵の墨蹟の表具ができたことを知らせています。瓢庵は利休の高弟とされる山上宗二(1544-1590)のことで、薩摩屋を屋号とする堺の商人です。また、密庵とは十二世紀の南宋の臨済僧、密庵咸傑(1118-1186)のことです。

瓢庵(山上宗二)から表具を依頼された利休は、上下を茶色無地の絁、中廻しを薄水色無地の絁、一文字と風帯に紫印金を用いて、静けさの中に高い格調の感じられる表装にしており、上下と中廻しの無地の色彩の調和に利休ならではの侘びの想念をうかがうことができます。江戸時代の茶人、小堀遠州(1579-1647)は龍光院内の書院風茶室を造作するにあたって、この墨蹟のためにとくに床の間をしつらえたので、その床の間を俗に密庵床と称するようになりました。現在、密庵の墨蹟は利休の添え状とともに大徳寺龍光院に伝わっており国宝となっています。

『密庵墨蹟添状』には、日付がまったく記されておらず花押もないので、いつ書かれたものであるかを確定することは困難です。しかし、天正八年(1580)には山上宗二が瓢庵を称していたこと、山上宗二が密庵の墨蹟を所有していたのが天正五年(1577)から天正九年(1581)であることから、この書状は天正五年から天正九年の間に書かれたと推定することができます。

参考文献

- ・『利休大事典』. 淡交社, 1989. [791.2/R 42]
- ・『手紙で読む利休の生涯: 解説』. 同朋舎メディアプラン, 2007. [791.2/Se 71]



文化政策学部 文化政策学科 教授
野村 卓志
Nomura Takashi

本文中に登場した資料

レイ・ブラッドベリ[著]小笠原豊樹[訳]
『火星年代記』
[933.7/B 71]

H.G.ウェルズ[著]小田麻紀[訳]
『宇宙戦争』
[933.7/W 57]

ジョージ・オーウェル[著]高橋和久[訳]
『1984年』
[933.7/O 71]

ジョージ・オーウェル[著]開高健[訳]
『動物農場』
[933.7/O 71]

アイザック・アシモフ[著]岡部宏之[訳]
『ファウンデーション』
(銀河帝国興亡史,1)
[933.7/A 92]

アイザック・アシモフ[著]岡部宏之[訳]
『ファウンデーション対帝国』
(銀河帝国興亡史,2)
[933.7/A 92]

アイザック・アシモフ[著]岡部宏之[訳]
『第二ファウンデーション』
(銀河帝国興亡史,3)
[933.7/A 92]

アイザック・アシモフ[著]小尾英佐[訳]
『われはロボット』
[933.7/A 92]

西田宗千佳[著]
『電子書籍革命の真実
: 未来の本 本のミライ』
[023/N 81]

ヒュー・マクガイア[著]ブライアン・オレリアン[編]
『マニフェスト 本の未来』
[023/Ma 15]

自分の書庫を持ち歩く 電子書籍で再読するSF小説

米国アマゾン社の電子書籍システムであるKindleが2012年10月に日本市場に参入してから、日本でも電子書籍の普及が一気に進みました。専用端末を買わなくとも、スマートフォン端末に電子書籍アプリを入れて使えるのが、普及した理由のひとつです。以前には電子書籍として用意されている本の種類はあまり多くありませんでしたが、普及につれて読みたい本を電子書籍ストアで見かけることが増えてきました。

最近の電子書籍システムは旧来のものとは異なり、クラウド・コンピューティングを活用するようになりました。ストアで購入した本はクラウド上にある自分の書棚に登録されます。本を読みたくになったら、手元の端末にクラウド書棚から本をダウンロードします。本を読みたくなくなった時にいつでも無料でダウンロードできるので、読み終わった本は端末から消しても問題ありません。少し前までは、ダウンロードした電子本の保管や管理に頭を悩ませたものでしたが、今や買った本を失くす心配もなくなりました。手の中の端末から見えるクラウド書棚には入手した本がすべて入っていて、まるで自分の書棚を常に持ち歩いているような感覚になります。複数の端末にダウンロードすることも可能なので、状況に応じて様々な大きさの端末を使い分けて読めるのもとても便利です。

そんな電子書籍ストアで、中学生や高校生の頃に読んだ小説を再び見つけて読み返してみる機会も増えてきました。高校生の頃に読んだ本は、読んだ時にはそう感じていなくても、後から振り返ってみると自分の考え方や社会の捉え方に影響を与えるような作品がありました。そんな本をまた電子書籍で読むことができるのは楽しいです。

米国の作家であるレイ・ブラッドベリが1950年に発表した『火星年代記』はそんなSF(サイエンス・フィクション)小説のひとつです。短編や中編の連作の形で、火星を侵略する人類の愚かな姿を詩情あふれる美しい文章で描いています。宇宙船や火星人といった話が出てきて荒唐無稽な話に見せかけながら、他国を侵略して紛争を繰り返すことを止めない人々を厳しく批判している作品だと思います。少し時代が戻って、1898年に英国のH.G.ウェルズが発表した『宇宙戦争』も、地球へ侵略してくる火星人の姿を描くことで、他国へ侵略戦争を繰り返す自分たちの姿を鏡に映すように描いている作品だと思います。この作品を基にして、ティム・バートン監督の1996年の『マーズ・アタック!』や、スティーブン・スピルバーグ監督の2005年の『宇宙戦争』などの映画が作られましたので、見たことがある人もいるかもしれません。

もうひとつ、高校時代に読んで印象深かったのは、ジョージ・オーウェルが1948年に発表した『1984年』です。ディストピア小説としても有名なこの作品ですが、全体主義社会において個人の人間性や人格が圧殺される姿を描いています。当時のソビエト連邦の様子をモデルとして書かれたということですが、全体主義社会に陥ったときの悲惨さはどの国でも同じではないでしょうか。同じ著者の『動物農場』とあわせて、一度は読んでみると良いと思います。

最初に読んだSFの長編は小学校高学年の頃に読んだアイザック・アシモフの『銀河帝国の興亡』三部作でした。野田昌宏氏の手によるジュブナイル版を読んだのですが、あとがきでこれが子供向けに改作されたものであることを知り、「子供向けでないものに挑戦してみよう」と思い立って文庫本を買ってきたのでした。大人向けの細かい字の本が読めるのだろうかとか心配だったのですが、読み始めたら面白くてあっという間に3冊読んだのを思い出しました。銀河帝国と言っても映画『スターウォーズ』のような冒険活劇ではなく、文明の崩壊に直面した人々が星間国家の再建のために努力する歴史物語のようなストーリーとなっています。今の邦題は星間国家の名前をとった『ファウンデーション・シリーズ』に変わっています。

アイザック・アシモフの作品では「ロボット3原則」をはじめ登場させた『われはロボット』も印象に残っています。次第に高度化してくるロボットが社会に受け入れられる過程をストーリーとしています。一見はロボットの発展の話のようでいて、実は作者が描いているのは「人間とは何か」という命題ではないかと思っています。

SF小説は、現実には縛られることなくストーリーや状況を自由に設定できるために、かえって著者が主張したいことがストレートに現れてくるのかもしれない。

最後に、電子書籍について知りたい人には、西田宗千佳『電子書籍革命の真実』やヒュー・マクガイア編の『マニフェスト 本の未来』をお勧めします。



デザイン学部 生産造形学科 教授
大学院 デザイン研究科 教授

佐井 国夫

Sai Kunio

本文中に登場した資料

夏目漱石[著] 『ころ』 [918/Ki 42/56]
芥川龍之介[著] 『芥川龍之介集』 [918/G 34/26]
村上春樹[著] 『ノルウェイの森』 [913.6/Mu 43/1-2]
陳寿[撰];裴松之[集注] 『三國志』 [222.04/C 46/1-2]
曹雪芹[高鹗][著] 『紅樓夢』 [923.6/So 11/1-3]
巴金[著] 『家』 [081/1 95/R28-1,2]
巴金[原著];施光亨,盧曉漁[改作・注訳] 『春』 [827.7/H 11]
巴金[著] 『秋』 [923.7/H 11]
トルストイ[著];中村白樂[訳] 『戦争と平和』 [988/To 47/4-6]
モーパッサン[著];杉本夫[訳] 『女の一生』 [908/Se 223/9]
シェイクスピア[作];大塚建治[訳] 『ヴェニスの商人』 [932.5/Sh 12/3]
S・W・ホーキング[著];林一[訳] 『ホーキング,宇宙を語るビッグバンからブラックホールまで』 [443.9/H 45]
三井いわね[著] 『ヒトは宇宙で進化する:無重力とからだの不思議な関係』 [498.44/Mi 64]
現代美術社[編] 『現代グラフィック・デザイン』(I,II,III) [727/G 34/1-3]
原弘[編] 『ビジュアルデザイン』 (グラフィックデザイン大系,第1巻) [727.08/G 95/1]
座右宝刊行会[編] 『現代世界美術全集』 [723.08/G 34/1-25]
ツルモトルーム[編] 『ピカソ版画回顧展:Picasso l'oeuvre gravé 1904-1972』 [706.93/P 59]
デイヴィド・ウァイス[著];榎原晃三[訳] 『ロダンの生涯:私は裸でやって来た』 [712.35/R 58]
座右宝刊行会[編] 『世界音楽全集』 笑美生[作];小野忍,千田九一[訳] 『金瓶梅』 [928/A 26/1-3]

過去の記憶

日本のデザインの奥深さに引かれ、私は二十数年前に上海から来日し、その後日本に帰化した。長く日本に住むと、暮らしの中で日本の文化や自然に触れる機会が増すことになり、時には図書館や書店でコミックや文学小説などの本を買ったり借りたりして、本を読むことを試みるようになった。日本語には難しいところがあり、夏目漱石『ころ』、芥川龍之介『羅生門・鼻』、村上春樹『ノルウェイの森』など文学小説以外は、正直に言えば購読した本はほとんどデザインやビジュアル表現を中心とした雑誌や書籍ばかりだった。

子供から20代の多感な時期を上海で過ごし、暇な時に読書をするのが私は大好きだった。国内の古典文学小説(『三國志』『紅樓夢』等)や近代文学小説の文豪の巴金の『家』『春』『秋』、そして、海外の書籍(トルストイ『戦争と平和』、モーパッサン『女の一生』、シェイクスピア『ヴェニスの商人』など)、音楽の本(チャイコフスキーやモーツァルトなど)から自然科学書籍、そして興味のある恋愛小説まで面白く読んだ。日本に来て生活や仕事の合間に、ステューヴン・W・ホーキング『ホーキング,宇宙を語る』、三井いわね『ヒトは宇宙で進化する』、立花隆『宇宙からの帰還』も興味津々に読んだ。その体験が今の自分のデザイン発想に影響しているかもしれない。

私にとって読書とは、ページを繰っていく事によって次の場面に転換し物語が展開していくのを楽しむことであり、それが時間の経過、物語の流れへと発展していった。ページを繰ることが時間と空間を変化させていくのに重要な役割を果たしているのである。本はその物語の世界へ誘ってくれたり、読後の余韻を深く味わわせてくれたりする役割もあると思う。本は、そこに描かれた物語やイメージを、本という形態を媒介にして私に伝えてくれるメディアであり、それは新たに想像することが出来る力を感じられる。

日本に来てから、休日に暇を見つけ、街を散策しながらなじみのある古書店へ行くことも楽しみの一つである。私の古書探しの習慣が始まったのは、日本に来た当時の留学生時代に遡る。

夕方、学校の帰りに高田馬場のビッグボックスという総合施設の中にある古書店に立ち寄った。そこで、まるで宝探しのように様々なジャンルの本と出会い、数多くの古書から読みたい本を見つけたら、なんだか嬉しくなった。その中の、流行から遠ざかったデザイン(『現代グラフィック・デザイン』[I,II,III]、原弘・勝見勝・小池岩太郎・山城隆一・田中正明[共著]『ビジュアルデザイン』[グラフィックデザイン大系,第1巻])、絵画(『現代世界美術全集』[ブラック/レジェ、エルンスト/ミロ、モディリアーニ]、『ピカソ版画回顧展』、デイヴィド・ウァイス『ロダンの生涯』)や音楽(『世界音楽全集』[ショパン、モーツァルト1、ベートーヴェン1,2、バッハ])などの古書は、私にとってすべてが新鮮で、相棒のように思えた。古書がくれた強烈なインスピレーションを受けた時の心情は、今でも鮮明に覚えている。

当時、私は日本に来てまだ時間が浅く、経済的にも精神的にも余裕がなかった。2~3千円の古書でも、私にとってそれを買うのはちょっぴりつらかった。1冊の本を買うのに、その日の夕食代やお小遣いが減ることがあるからだ。

日本に来てから二十数年を経て、仕事の関係で引っ越しは7、8回にもなる。引っ越しのたび、いらなくなるものや古くて使えなくなるものを処分したりもするが、古書店で購入した数百冊の本は捨てることなく、今も自宅の書齋に並べてある。時には本を手にとって、触った時の感触が懐かしく、本のぬくもりと本の内容が運動し、より深く内容を楽しめた時、とても嬉しくなる。

日本では本を購入したい時、まず書店に行って、好きな本が目にとまり何気なく買って、家に持ち帰ってその本を読むというのがごく一般的で、何も抵抗がなく不便を感じたことはないだろう。しかし、私の生まれ故郷の上海では、文化芸術の民主化が止まっていた1960年代の後半から70年代の半ば頃までの間は、経済を立て直し、国民が豊かに生活できるということよりも、むしろ、国全体が思想闘争や政治運動に無我夢中だった。当時、西洋のものだけに留まらず、言葉は飛躍が許されない時代だった。一言で言えば、書籍から自由に知識を得ることが容易ではなかった。個人の思想又は信仰の自由など、中央政府との考え方とかなり隔たりがあるものは、欧米諸国のものに限らず、中国古来の伝統文化、宗教観なども禁じる対象となった。海外の恋愛著書や西洋音楽でさえ資本主義の産物と見なされて、約10年の長い間、書店に並べられることは許されなかった。その行為に反するものや都合の悪いものは、容赦なく「資本主義」と位置づけられ、そのうち批判される対象になり得る微妙な、理不尽な時期でもあった。今思えば、当時唯一だった新華書店には、政治関係や一般の文芸書籍が店頭にずらりと並んでいて、その不気味な光景は今でも印象に残っている。

このように、皆が想像を絶する過去の悪環境の中でも、禁じられたものに対し、禁じられれば禁じられるほど、好奇心や遊び心を持った多くの若者たちが、いかに政府の厳しい監視下から隙間を盗み、求めたいものを手に入れるか、知恵を絞って考えていた。例えば、大学の図書館に勤めた友人に頼み、無許可(違法?)で図書館に封印された大量の「禁書」(国内では猥褻書第1号の『金瓶梅』や、女性が絶対に読むはいけないモーパッサンの『女の一生』など)を取り出して、読み終わったらまた図書館に戻すと言う方法で無言の抵抗をした。読みたい本をやっと手に入れた瞬間、その喜びは言葉では表すことのできないほど強烈で、感無量だった。当時の上海の街中、その水面下で若者の知識に対する欲求はマグマのように膨張し、危険を冒しても読み回しのために徹夜して熱心に読書する若者が多かった。

本の不思議な力は、未知の世界と出会えることを信じ、素朴な気持ちで社会の変化を静かに求める若者には、希望の光を当てるきっかけになったかもしれない。これは私たちの青春だったと今思う。現在、本はインターネットにとって変わり、電子書籍に期待するメディアの時代と言われる。それによって大手出版社などメディア関係者は苦戦を強いられているが、これからも本のも多様性を保ちつつ、時を超えて、いつも懐かしく、いつも変わらないものでいてほしい。

雑誌記事データベース

図書館・情報センターでは、各種のオンラインデータベースを提供しています。今回は、そのうち雑誌記事データベースを紹介します。

・ CiNii Articles

CiNii Articles は、NII(国立情報学研究所)が提供する学協会刊行物・大学紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引などの学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。2014年9月現在、検索できる論文数は約1,800万件です。そのうち、学協会刊行物と各大学あるいはNIIが電子化した研究紀要の一部を合わせた400万件については、CiNiiに論文本文があります。また、CiNiiに論文本文がない場合でも連携サービスへのリンクが設けられているので、より多くの論文本文に到達できるようになっています。さらに、検索した論文について、参考文献と被引用文献が表示されますので、引用関係をたどることが可能です。



NII-ELS 学協会刊行物	国内の学協会が発行する学術雑誌に掲載された論文について、ページをそのまま画像データ(PDF形式)として蓄積。本文の参照を可能にしたデータベース
NII-ELS 研究紀要	国内の大学等が刊行する研究紀要に掲載された記事情報を収録したデータベース
引用文献索引 データベース	国内の自然科学分野の学術論文誌・学協会刊行物に掲載された論文について、論文とその論文が引用している文献との関係がわかるように作られたデータベース
J-STAGE	国内の学協会の電子ジャーナルを提供するデータベース
機関リポジトリ	国内の大学等による、自機関の構成員による成果等を収集し公開しているデータベース
雑誌記事索引 データベース	人文・社会/科学・技術/医学・薬学と、あらゆる分野の記事に関するデータを収録した国内最大の記事索引データベース
日本農学文献索引	農林水産関係の学術雑誌約500誌に掲載された論文等の書誌情報を収録
医中誌Web	雑誌記事索引等からの収録データにのみ、医学中央雑誌刊行会提供のデータを使用して医中誌Webの該当論文情報へのリンクを表示
CrossRef	他のデータベースからの収録データにのみ、CrossRefが提供するデータを使用して該当論文情報へのリンクを表示
日経BP記事検索 サービス	雑誌記事索引等からの収録データにのみ、日経BP社提供のデータを使用して抄録と本文へのリンクを表示
情報学広場：情報処理学会電子図書館	
日本物理学会電子ジャーナル・応用物理学会電子ジャーナル	

・ Web OYA-bunko (大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版)

大宅壮一文庫は、評論家・大宅壮一が収集した雑誌資料を継承し、明治時代以降130年余の雑誌を所蔵している専門図書館です。Web OYA-bunkoでは、大宅壮一文庫が所蔵する雑誌の記事を検索することができます。Web OYA-bunkoには、雑誌に掲載された様々な事件や出来事、流行、話題の人物についての記事索引が収録されていますので、その時代の世相・風俗・事件、事象が掲載当時に注目された理由や、時代背景を探るために最適な資料を調べることができます。



収録索引数	1988年以降の雑誌記事索引、約380万件。毎週3,000件のデータが新たに追加される。
収録人名項目数	約11万人。毎年2,000人の新項目が追加される。
件名項目数	約7,000項目。ツリー型分類でも検索可能。
件名キーワード	約7万語。事件名や会社名などさまざまな事物の名前で検索が可能。
収録雑誌数	約1,500誌。現在刊行中の雑誌は約400誌を採録。週刊誌等の一般雑誌120誌は詳細な記事索引を採録。専門的な雑誌280誌は主要記事の索引を採録。

・ Magazine Plus

一般誌から専門誌、大学紀要、海外誌紙まで収録した雑誌記事索引データベースです。国立国会図書館の「雑誌記事索引」ファイルのほか、「雑誌記事索引」でカバーしきれない年報類・論文集や一般誌なども収録しています。2012年7月現在で、雑誌 24,806 誌+図書 13,123 冊の論文・記事 1,223 万件を収録しています。



国立国会図書館・雑誌記事索引 (収録年：1946-)	地方史文献年鑑 (収録年：1997-2011)
東洋経済 (収録年：1997-)	KSK(海外産業・企業誌紙) (収録年：1985-2005.3)
JOINT(国内経済専門・業界誌) (収録年：1981-1995)	学会年報・研究報告論文総覧 (収録年：1945-2013)
論文集内容細目総覧 (収録年：1945-2008)	歴史学紀要論文総覧 (収録年：1920-2006)
一般誌・総合誌・ビジネス誌 (収録年：2003.4-)	ジャーナルインデックス (収録年：1981-2003.3)
シンクタンク (収録年：2000-)	文芸雑誌小説初出総覧 (収録年：1945-2005)
文芸雑誌内容細目総覧 戦後リトルマガジン篇(収録年：1945-1979)	
探偵雑誌目次総覧 (収録年：1922-1964)	現代詩誌総覧 (収録年：1921-1946)
戦後詩誌総覧 (収録年：1931-1975)	大東亜戦争書誌 (収録年：1937-1944)

・ 雑誌記事索引集成データベース ざっさくプラス

皓星社が刊行している『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』(120 巻)を基に作成されたデータベースで、国立国会図書館の「雑誌記事索引」のファイルも完全搭載しているため、明治から現代までの雑誌記事をシームレスに検索することができます。また、国立国会図書館の「雑誌記事索引」では採録の対象になっていない地方で刊行された雑誌類についても、地方誌の論文・記事・総目次などが収録されているため、全国誌から地方誌までの雑誌記事をシームレスに検索することができます。



明治初期から現代まで	明治期からのデータを重点掲載。戦後期も国立国会図書館『雑誌記事索引』データと併せて独自データを追加中。
『雑誌記事索引』の空白期間を補充	国立国会図書館の採録基準の見直しにより、空白期間がある索引データを補充し、雑誌の創刊から終刊まで通したデータの検索が可能。
全国誌から地方誌まで	『地方史文献年鑑』(1997年～) 『地方史雑誌文献目録』(1983年～1997年) 『日本史文献年鑑』(1974年～1983年) の文献をベースに、明治から現代まで全国各地で出版された雑誌のデータを追加。

【利用上の注意】

- ・ 上記の雑誌記事データベースは CiNii を除き、学内限定のデータベースですので、学外の方は利用できません。
- ・ 学内ネットワーク経由の接続に限られますので、学内であればどこからでも利用できます。
- ・ CiNii を除き、同時アクセス数に制限があるので、利用が終わったら速やかにログアウトしてください。
- ・ CiNii を除き、他の人が利用している場合、利用することができません。しばらく時間をおいてから、再接続をしてください。

「こういう事柄について知りたいのですが、どの資料に載っていますか?」「こういうテーマの資料はありますか?」といったことはありませんか?そんなときは、図書館・情報センターのカウンターでご相談ください。資料を探すお手伝いをするサービスをしています。このサービスを「レファレンス」といいます。これまで相談があったレファレンスの事例を紹介します。

その1

平家物語に出てくる河原高直と河原盛直の兄弟は実在した人物なのかを確認したい。

文化政策学部の学生さんからのレファレンスです。その学生さんは、すでに本学所蔵の『平家物語大事典』(東京書籍, 2010.11)で「河原高直・河原盛直」について調べていました。『平家物語大事典』では「武蔵野国私市党の武士。武蔵国埼玉郡河原郷(埼玉県行田市北河原・南河原)を本拠地とした。」とあり、その根拠として『新編武蔵風土記稿』、『浅羽本系図・私市』(新編埼玉県史・別編四)、『吾妻鏡』が紹介されています。そのうち、『吾妻鏡』は本学で所蔵している日本古典全集刊行会刊『日本古典全集』や吉川弘文館刊『國史大系』に収録されていますので、すぐに確認することができました。しかし、前の二つは本学に所蔵がありませんので、相互利用で取り寄せるか、所蔵している図書館へ行って確認する必要があります。

まず、『浅羽本系図・私市』は、『平家物語大事典』の記述で『新編埼玉県史』の別編四に収録されていることが分かっています。CiNii Booksで『新編埼玉県史』を検索すると187館の大学図書館等が所蔵していることがわかりました。電子化された『新編埼玉県史』がないか埼玉県立図書館のWebサイトを調べてみましたが、目次情報はあったものの電子化された本文はありませんでした。その結果、『新編埼玉県史』については相互利用サービスで現物を取り寄せることになりました。

さて次に、『新編武蔵風土記稿』です。この資料は、江戸時代文化年間(昌平坂学問所)が編纂した全265巻にわたる武蔵野国の地誌です。CiNii Booksで『新編武蔵風土記稿』をタイトル完全一致で検索すると、内務省地理局が編纂したものや、雄山閣刊『大日本地誌大系』に収録されているものなど20件の書誌がヒットしました。特に雄山閣刊『大日本地誌大系』は何度か版をかえて刊行されています。残念なことに、本学では『大日本地誌大系』を所蔵していませんので、すぐに確認することができません。相互利用サービスで現物を取り寄せればよいのですが、索引を含め全部で13冊に分かれて刊行されており、また相互利用サービスは有料のサービスですので、全部を取り寄せることは現実的ではありません。そもそも『新編武蔵風土記稿』のどこに「河原高直・河原盛直」に関する記述があるのでしょうか。そこでもう一度『平家物語大事典』をみると、『新編武蔵風土記稿』では、「河原高直・河原盛直」の本領が埼玉郡北河原村・南河原村であり、兄弟の碑が照蔵寺というお寺にあるということがわかりました。ということは、『大日本地誌大系』の『新編武蔵風土記稿』で埼玉郡北河原村と南河原村の記述が第何巻にあるかを確認すればよいことがわかります。しかし、CiNii Booksの書誌ではそこまでの情報がありません。そこで、国立国会図書館サーチで「新編武蔵風土記稿」と「埼玉郡」でキーワード検索しました。すると、『大日本地誌大系』では『新編武蔵風土記稿』の第10巻と第11巻に埼玉郡の記述があることがわかりました。



国立国会図書館サーチでは、国立国会図書館が所蔵する資料の全てをさがすことができるだけでなく、国立国会図書館などが収録しているデジタル資料なども探すことができます。『大日本地誌大系』は電子化されていたのですが、「館内限定閲覧」となっており、国立国会図書館へ行かないと閲覧することができません。しかし、明治時代に和装本で刊行された内務省地理局刊『新編武蔵風土記稿』が電子化されインターネット公開となっていました。一方、CiNii Booksで最も古い雄山閣刊『大日本地誌大系』の『新編武蔵風土記稿』は1929年に刊行されています。国立国会図書館の近代デジタルライブラリーに収録されている可能性があります。念のため検索してみることにしました。



キーワードに「新編武蔵風土記稿」と「埼玉郡」として検索したところ、内務省地理局のものしか検索されません。「新編武蔵風土記稿」と「埼玉郡」をキーワードにして検索してみました。すると、1929年の雄山閣刊『大日本地誌大系』の『新編武蔵風土記稿』が検索できました。さらに、この資料は電子化されインターネット公開されていることもわかりました。しかし、第10巻と第11巻の目次には北河原村と南河原村の項目がありません。どちらであるか限定するために、Wikipediaで『新編武蔵風土記稿』の項目を見てみると、昌平坂学問所刊『新編武蔵風土記稿』の目次があり、北河原村と南河原村は巻之二百十七に記載されていることと忍領であることが確認できました。近代デジタルライブラリーで雄山閣刊『新編武蔵風土記稿』の目次を確認したところ、第11巻に忍領の記述があることがわかりました。確かに55ページに北河原村の項目が、57ページに南河原村の項目がありました。

ここまでの調査結果を、学生さんに回答し、インターネットで本文まで読めることを伝えました。しかし、その学生さんは冊子での閲覧を希望しましたので、相互利用サービスで雄山閣刊『新編武蔵風土記稿』の第11巻を取り寄せることになりました。

その2

江戸時代の駿府城下の古地図を見たい。

デザイン学部の先生からのレファレンスです。カウンターで「江戸時代の駿府城下の様子を知りたいのです。地図があればいいんですけど…」との質問でした。お急ぎのようでしたので、とりあえず本学にある資料で適当なものがないか調べることにしました。

まず、駿府城に関する資料が本学で所蔵していないか、OPACで「駿府城」をキーワードに検索してみました。その結果、『東海道上核都市の誕生』（建設省静岡国道工事事務所、1996.3）をはじめとする5件の図書を検索することができました。そのうち2件は静岡県埋蔵文化財センターや静岡県教育委員会から寄贈された発掘調査報告書です。『東海道上核都市の誕生』をみると、『駿河府中之図』（東京総合大学図書館南葵文庫蔵）や秋岡武次郎古地図コレクションに含まれている『駿河図』（国立歴史民俗博物館蔵）が掲載されていました。しかし、両図ともかなり縮小して掲載されているため、城下のおおまかなところはわかるのですが、詳細なところが細かすぎてよくわかりません。もう少し大きな古地図を所蔵していないか、OPACで「古地図」をキーワードに検索してみました。すると『19世紀欧米都市地図集成』をはじめとする18件の図書を検索することができました。そのうち、参考書架にある『日本の古地図』（創元社、1969）をみると、『駿府名称一覧図』（慶長四年刊）にかなり大きく掲載されていることがわかりました。

当たり前のことですが、江戸時代の駿府城の地図は、江戸時代もしくは明治初期に作成されています。一方、国立国会図書館デジタルライブラリーのように、国立国会図書館をはじめとする公共図書館では、自館が所蔵する古文書や貴重書などを電子化してインターネットに公開していることがあります。特に都道府県立図書館では、その都道府県に関する古文書や古地図などを電子化して「電子図書館」として集約し、公開していることが多くなっています。

念のため、静岡県立中央図書館のWebサイトを調べてみると、電子図書館・電子展示会・富士山関係資料をコレクションとする「デジタルライブラリー」がありました。



電子図書館では、静岡県立中央図書館が所蔵している葵文庫、久能文庫、上村翁旧蔵浮世絵集コレクション、地域資料、その他の貴重書の画像を検索・閲覧できるようです。地域資料の説明として、「静岡県に関係する絵図・地図や貴重な資料を検索することができます。」とありましたので、電子図書館システムで検索対象を「地域資料」、検索キーワードを「駿府城」にして検索してみたところ、検索結果が0件となってしまいました。検索キーワードを「駿府」に変えて検索すると3件検索することができました。そのうち『駿府并近郊図』（1868年）は、題名のとおり城下だけでなく近郊の地名も詳細に記載されています。もとの大きさが69×69cmで、かなり大きい図面ですので、いろいろな情報が記載されています。静岡県立中央図書館のデジタルライブラリーにある電子化された図は高精細で、記載されている文字までははっきり読み取ることができました。

ここまでの調査結果を、先生に伝えたところ、これで十分だったのか、図書については必要な部分をカラーコピーし、静岡県立中央図書館のデジタルライブラリーの資料は、研究室で閲覧していただくことになりました。最後に「便利になりましたね～」と言われて、研究室へ戻っていかれました。

今回紹介したレファレンスの事例は、質問してきた学生さんや先生の頭の中で必要なものがかかなり具体的になっていましたので、スムーズに資料提供にこぎつけることができました。しかし、必要な情報が何であるのかははっきりわからないままカウンターに来られることもあります。その場合には、こちらから質問を繰り返して、来られた方の頭の中にあるモヤモヤした状態からヒントとなる言葉を引き出し、一緒に必要な資料を探したり、手がかりとなる資料を紹介しています。レポートや卒業論文等で詰まったときは遠慮なくご相談ください。

PC貸出管理システムを更新しました

図書館・情報センター内PC貸出管理システムの更新に伴い、PCの貸出・返却の手続をするシステムの画面が変わりました。貸出・返却の手順は基本的にこれまでと同じです。センター内のPCを利用する時は、必ず貸出・返却の手続をしてください。



- シートマップがエリア別表示になりました《変更点》
⇒上方にあるタブで、「メディアステーション」「情報検索コーナー」「貸出用ノート PC」から利用したいPCを選択します。
- 空いているのは「青表示」のところです。座席番号をクリックすると、貸出手続画面に遷移するので、学籍番号とパスワードを入力し、利用目的を選択します。利用証を受け取ってPCを利用し、終了時には必ず返却手続をしてください。
- 利用証は必ず返却してください。貸出・返却処理が出来ないときは、メディアアドバイザーに相談してください。

※このサービスは、本学学生および教職員を対象とするものです。

ユニバーサルデザイン絵本コンクール2014を開催しました

静岡文化芸術大学では、身体的・知的特性、年齢、文化などを越えて、皆が一緒に楽しむことのできる、ユニバーサルデザインの考え方を採り入れた絵本を募集し、「ユニバーサルデザイン絵本コンクール2014」を開催しました。受賞作品は以下のとおりです。多数のご応募ありがとうございました。

- 大賞 (該当作品なし)
- ユニバーサルデザイン研究賞
「雨の音」(浜松市立白脇小学校4年 中山 未愛)
- 優秀賞
【子ども部門】
「わたしたちの大好きな夏の思い出」(宇城市立中央図書館)
「おいかけて おいかけて」(袋井市立袋井中学校2年 佐藤 優歌)
【高校生部門】
「あいうえおえほん」(東京都立工芸高等学校3年 西尾 かなで)
「ゆうれいサンタがやってきた」(浜名特別支援学校高等部1年 安田 幸大)
- 佳作
【子ども部門】
「やさいのキ♥モ♥チ」(袋井市立袋井中学校2年 河原崎 芽)
「やさささいっぱい」(袋井市立袋井中学校2年 森松 麗華)
「フルーツかくれんぼ」(袋井市立袋井中学校2年 山本 彩莉)
「へんしん」(袋井市立袋井中学校2年 此本 充里)
「おかたづけできるかな??」(袋井市立袋井中学校2年 山本 ありさ)
【大学生部門】
「PALMTOP RAINBOW」(静岡文化芸術大学大学院2年 田中 英子)
「タカとハルの江の島のたび〜小田急ロマンスカーにのって〜
(LLブックにチャレンジシリーズ[1])マルチメディア DAISY 版」
(専修大学アクセシブルメディア研究会)
「ざぶざぶざぶん」(静岡文化芸術大学2年 北村 理恵)

※受賞者の敬称は省略させていただきました。



編集後記

学生時代、重い辞書から解放してくれた電子辞書には感激したものです。今は携帯端末があれば、いつでもどこでも、クラウド上の自分の書棚から本をダウンロードして読める、より便利な時代になりました。以前は冊子に頼っていた論文も電子化が進み、ネット上で読めるものが増えています。電子化が進む一方で、紙の本が持つ良さは捨てがたく、両者をうまく使いこなしていければと思います。(直)